

C F T ニュース&息抜き（12月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

1. 2023年11月の気になる問合せ

- (1) 当社の製品のコーヒーの一括表示で、原材料名の部分が「原材料名：コーヒー生豆（生豆生産国名：ブラジル）」としていたが、顧客より、「原材料名がコーヒー生豆というのはおかしい、原材料名は、コーヒー豆ではないか」という指摘をされた。

他社の一括表示をみると、確かに「原材料名：コーヒー豆（生豆生産国名：ブラジル）」となっている。

当社も、原材料名：コーヒー生豆（生豆生産国名：ブラジル） → 原材料名：コーヒー豆（生豆生産国名：ブラジル）、に修正するつもりだが、「原材料名：コーヒー生豆」という表示はだめなのか？

⇒ 原材料名の表示は、コーヒー公正競争規約同施行規則に「「原材料名」の文字の後に「コーヒー豆」と表示し、次に括弧内に「生豆生産国名」の見出しを付け、そのコーヒー生豆の生産国名を表示する。」とされています。

御社の表示は間違いではなく、コーヒー生豆を原料として焙煎している旨、丁寧に記載されたものと理解します。コーヒー業界関係者には「コーヒー生豆」が通称ですが、一般の方は理解しないかもしれません。

問合せ者に、コーヒー公取協は間違いではないとしている旨、応えられて構いません。包材改定時に変更されることで問題ありません。

- (2) レギュラーコーヒーにギャバを加えた製品を考えている。この種の製品には「コーヒー調製品」などとしてあり、品名や名称にレギュラーコーヒー記載がないがなぜか。また、原材料表記はどうすればいいのか。

⇒ コーヒー公正競争規約は、原料をコーヒー豆に限定しており、添加物を含めコーヒー以外の物を加えるとレギュラーコーヒーやインスタントコーヒー名称の使用はしないよう求めています。このため、コーヒー以外の物を加えると、コーヒー調製品、コーヒー加工品など称するとみています。

コーヒー豆とギャバのみとのことであるので、「原材料：コーヒー豆、ギャバ」としてください。

2. 紛争の2023年も残りわずか

2023年の漢字は「税」と報道されていたが、CFT子には「熱」の年だったと思う。世界的な異常気象により干ばつ、山火事、豪雨、大洪水と自然現象の急激な変化に伴うと思われる災害が世界中で多発した。干ばつなどの天候不順はコーヒー生産に大きな影響を与え、アラビカ種コーヒー生産の持続に大きな不安を与えている。とはいえ、巨額の財政赤字を考えると「税」となるのも自然なように思える。

アラビカ種コーヒーの故郷、エチオピアは生産の半分以上が国内消費に回る稀な生産国で、国内のコーヒー価格が輸出価格より高値で推移することがあるため、輸出品が国内市場に逆流することもある。エチオピアの農家にとりコーヒーは重要な換金農産物であるため、農家の女性は家の周りのコーヒー果実をピッキングし、少しでも高く買ってくれる仲買商を探して10キロ以上歩きまわる。アフリカも中南米のコーヒー農家も女性の労働力に依存するところ大である。国際コーヒー機関はコーヒー農家の女性の労に報いるべき活動を始めているが早く成果を上げて欲しい。

エチオピアの対岸のイエメンもモカコーヒーで知られていたが、今はフーシー一派が支配し、コーヒーよりミサイル攻撃で知られるようになった紛争の地。イエメンのコーヒー栽培はどうなっているのだろうか。

2023年は気候変動の影響か12月に入っても暖かい日があり、気候変動は我々の生活感を大きく変えさせているのでないかと思う。本年は桜の樹の葉が紅葉も待たずに散ったところもあり、来年の桜はどうなるのかと思わせる。西行法師も心配だろう。

12月中旬を過ぎようやく気温は下がりコーヒーの美味しい季節になった。CFT子は真夏もホットコーヒーだが、寒くなるとコーヒーは一段と美味しくなる。ミルで豆を挽き、コーヒー粉にお湯を注ぐときのコーヒードームには歓びを感じる。部屋いっぱい広がる香りは頭も心も豊かにする。

コーヒーを楽しめる平和な年月が続いて欲しいと祈る今日この頃である。